

# 令和5年度第3回津山・英田圏域保健医療対策協議会議事録概要

日時：令和5年10月5日(木)

16:00～17:30

場所：津山鶴山ホテル

## 1 開会

## 2 美作保健所長挨拶

(委員の紹介)

委員 29 名中 24 名と、過半数の出席を得ており、本日の会議は有効に成立する。

## 3 議題

### (1) 第9次津山・英田保健医療圏地域保健医療計画(案)について

○各課長から主な変更点について説明 別添資料

○意見交換

<会長>

・救急医療について、まとめて書いてあるが、皆様は一次救急、二次救急、三次救急の具体的な内容について、どのくらい理解されているだろうか。

<所長>

・ご指摘の通り、一次二次三次救急のすみわけなど、なかなか住民の方々には十分伝わっていない部分があるかと思う。県の方でも医療情報システムや、市町村の方でも在宅当番制度等で周知いただいているとは思いますが、特にこの圏域では、二次三次救急がひっ迫したことを踏まえて、これから一次救急、プライマリーケアがどういった体制になっているのか、県だけでなくこの圏域の中でもしっかり啓発していく必要があると思っている。

<会長>

・準夜間・夜間の初期救急医療体制整備が課題とあるが、課題のままでよいのか。もう少しどうしていくか考えていくべき時が来たのではないかとと思っている。

<委員>

・医師の高齢化や後継者不足の問題があり、外来医療体制の整備が難しくなっている。また、施策の方向だが、「協力を求める」ことで、施策として足りるのかどうか。施策としては、割と中身がない施策になっていないか。場合によっては、我々市町村も多少の協力することをそろそろ検討しても良いのではないか。その辺が文章として残っていれば良いと思う。

<所長>

・大変貴重な意見をありがたい。事業継承・新規開業については、きわめて難しい。何とかかかりつけ患者がいるからやっているが、赤字経営が続いている、跡継ぎがいても戻ってくるのは難しいというような、切実な事情も聞いている。市町村とどう連携して医療連携体制を構築していくか大切なところ。昨年津山市では、診療所で先生を公募されるなど、様々な全国的な取組もあるため、横転換を図りながら、具体的にどのようなことができるのか示していきたい。我々も圏域の課題を把握し、県全体の取組となるよう考えていきたい。

<委員>

・新規開業する方に、「地域で不足する外来医療機能の確保」とあるが、この具体的な中身がわかりにくい。医師会長に伺いたいですが、学校医も含めて地域の公衆衛生的な手伝いもあるが、救急医療への協力も必要かと思う。以前のような輪番制は崩壊している。この地域の救急医療体制は不安。医師会に入る際、協力や要請は医師にしているのか。条件付け等、医師会としての取組はいかがか。

<会長>

・現実的に新規開業はない、これまでのものをどう維持するか。もし入られたら頼むが、現実が増えていく雰囲気は無い。(初期)救急に関しては圏域で考えていかないと、市町村の方々もこのままで各自自治体が請け負ってやるのは難しい。このままでよいのか、この会議、又はこの後の地域医療構想調整会議の場で意

見がもらえたらと思っている。

<事務局>

・新規開業については、公衆衛生について協力を求めると申し上げたが、元々は県の外来医療にかかる医療提供体制計画の内容。公衆衛生のみならず、在宅医療、初期救急医療、その他介護保険の認定審査等幅広いものについて新規開業者に協力を求めていくというのが、県の計画にあるため説明させていただいた。

<宮本会長>

・国や県は、県北をみて計画を出してくるものでない。都市圏のものであるため、この地域の実情に合ったものを出せば良いと考える。

## ご意見等

<委員>

・事業継承や破産による案件など具体的な案件を抱えている中で、もがいていくので、それなりに県ももがきに対して目をしっかり開いて対応していただきたい。

<委員>

・先ほどから出ている休日当番医について、今年度も正月2日当番医がないと言うことで、これから地域住民に対して周知していく予定としている。来年度以降も続くので対応していきたい。

<委員>

・10病院あったが、歯科医院2カ所、診療所1カ所がなくなった。子どもは医者になっているが、今は専門化してきているので、診療所を開業する跡継ぎはいないと聞く。新規の開業は難しく、継承も難しいと思う。行政として支援とまではいかないが、色々と関わっていく必要があると深く感じている。地域全体の問題という認識で捉えていく必要があるとさらに思いを強くした。

<委員>

・人口も減っていく、高齢化も進んでいく。跡取りはいないと、我々も住みながら不安な将来と感じている。その中で、オンライン診療に頼ることも必要だと感じる。行政と医療の支援は負担やウエイトが大きくなっていく。これからも地域医療を支えながら安心して過ごせる町にしていきたい。

<委員>

・医療制度の中で我々は医療を考えてきたが、この考え方に限界がある。医師とはいえ住民であり労働者という立場もある。医療の仕事というだけで、すべてを解決するのは無理がある。行政としては、どうしても必要な機能の一つとして、しかも医師も住民・労働者であるという視点から、行政からのお手伝いができればと思う。

<委員>

・先程来、休日当番医の話がでていたが、久米町と美咲町はなくなったわけだが、仮に残っていたとしても限界が来ていた。話を伺うと、「Drの人数が少ないので当番がすぐに回ってくる」「(開所すると)薬も必要で、薬局の方に来てもらわないといけない」等難しい問題があると感じている。どうにもならなければ救急車を呼ぶしかないという感じに町としてはなっている。年末年始の休日は不安になる。何をどう取り組んでいけば良いか、行政としても悩ましい。

<委員>

・昨年久米郡医師会解散の際、会長のところへ相談に上がった際「困った困ったばかり言わずに、行政はもっと考えろ」とご指摘を頂き、確かにそうだと思っている。行政として何ができるのか具体的に考えていく段階に入ったと考えている。行政で何ができるかという中で、医療と介護の連携の中で、介護の方からアプローチが行政として取り組めるのではないかと考えている。

<委員>

・救急搬送については、休日夜間の病院選定が平日日中に比べると回数が多くなり、搬送時間がかかる。消防も救急医療だけでなく、様々な施策へ協力し、救急搬送がスムーズになればと思う。

<委員>

・医師の確保等について、医師の定着のしやすさについて記述いただいているが、医師の2024問題に対して働きやすい環境づくりの観点を施策の方向性に入れていただくよう検討いただければと思う。

<委員>

・働き方改革も含め医療従事者全体の労働環境もあるが、住民側があおりを受けないような体制づくりを

検討いただきたい。

<委員>

・栄養委員として予防活動の大切さを感じている。声掛けやスキンシップ等これからも工夫しながら予防対策を栄養委員として行っていきたい。

<委員>

・健康づくりボランティアとしてお手伝いをさせていただいている。先日の県議会一般質問において、県北の議員が愛育委員栄養委員について質問してくださり、知事・部長の答弁を聞いた際、我々の背中を押してもらっていると感じた。市長村長様方に、地域のボランティアを応援いただきたい。

<委員>

・看護職の確保定着を目指している。また、看護職とともに働いてくれる介護職が不足しているため課題は多い。救急搬送の受け入れについて、空いている病院がまんべんなく受け入れられると一部に負担がなく済むと考える。

<委員>

・薬剤師は処方という役割だけではなくなっている。地域包括ケアシステムにおける薬局の役割を果たすためには、患者としてのみ捉えるのではなく、地域住民の健康維持増進に目をむけることが必要だと考えている。オンライン診療、電子処方箋に伴い、オンライン服薬指導も普及し、へき地においてもより利便性も高まるだろう。

<委員>

・最近の課題として、薬が不足していること。この地域の薬局にどの薬があるのか、把握できるシステムを行政としても考えていく必要があるかと考える。医師同様に薬剤師も不足している、人的要因の解決も必要である。

<委員>

・歯科医師会としては予防対策、健口づくりに取り組んでいきたい。乳幼児から小学生・中学生のう蝕予防、中学生高校生の歯周病予防対策に取り組んでいきたい。

<委員>

・当院は地域の基幹病院であると自負しており、県北のこの体制を維持していきたいと考えている。医師の働き方改革も今後行われるが、医療者はこれまでボランティア精神で要求に答えられるよう働いてきたことで、日本の医療は支えられてきた。しかし、考え方には変化が生まれつつある中で、現在の医療を維持するのは難しいと感じる。当院としては、何とか今の体制、今の質を落とさないようにしたい。  
・現在の保健医療計画の考え方は、大病院があり、中小病院があつて、診療所があるというモデルの延長上に考えられていると思うが、おそらく今後崩れてくると思う。病院も機能分化し、淘汰が始まっている。特にこの地域では、高齢化が進み診療所も減っていくかもしれない。将来的にそのような状況になっても今の医療機能をどう維持していくのかということ念頭に置きながら、行政としても様々な計画・対策を考えていただければと思う。

<委員>

・当医師会は小さな医師会であり、高齢化も進んでいる。休日の当番の編成に苦慮している。これは、当医師会の課題と認識している。ただ、この問題については当医師会だけでは解決できない課題であると認識している。そのため、このような場でよい解決策が見つけられたらと思っているのでよろしく願いしたい。

<副会長>

・現状を維持すること、普通であることは非常に難しい。大きくなることよりも現状を維持することは大変だと認識している。計画の策定には非常に苦勞されたことを思う。ご苦勞様でした。

<会長>

・おそらく3年後に中間見直し、6年後に評価となるだろうが、今後も具体的にどうしていくかということを検討していく必要がある。

<所長>

・今後の進捗については、地域医療構想調整会議においても議論を深めていく。

<司会>

・本日いただいた意見等を含め、今後の変更等については、会長にも相談しながら対応させていただく。